

政時代よりのもの也といひ傳へたり。

○千日町長壽人

此の町に居住する越中屋三四郎母いよは、享保八年生にて、文化九年舊藩より九拾歳の扶持米を賜はり、天保五年四月廿七日百拾貳歳にて歿せり。此の地邊は昔より長壽人多かりけん。是よりさき、千日町越中屋嘉兵衛祖母ゆか、元祿十四年生にて、寛政二年より扶持米を賜はり、享保三年正月十九日百歳にて歿せり。また同町鍼醫師矢木多門母さよ、享保十二年生にて、文化十三年より扶持米を賜はり、文政十年十一月十五日百壹歳にて歿せり。又同町雨寶院門前越中屋吉右衛門後家^{さま}さん、享保十三年生にて、文化十四年より扶持米を賜はり、文政十年十二月十五日百歳にて歿せり。また石坂町能登屋吉兵衛方借屋人小原屋長右衛門母ふし、寶永五年生にて、寛政九年より扶持米を賜はり、文化四年三月十五日百歳にて歿せり。また同町小松屋源兵衛、正徳三年生にて、享保二年より扶持米を賜はり、文化九年十一月廿七日百歳にて歿せり。また同町館屋彌助祖母^{おの}その、正徳四年生にて、文政七年より扶持米を賜はり、天

此の町に居住する越中屋三四郎母いよは、享保八年生にて、文化九年舊藩より九拾歳の扶持米を賜はり、天保五年四月廿七日百拾貳歳にて歿せり。此の外百歳に満たず、七年より扶持米を賜はり天保五年十二月廿七日百歳にて歿す。

保五年十二月廿七日百歳にて歿す。此の外百歳に満たず、九拾歳以上にて歿せし男女、寛文以來九拾歳扶持米賜はりける者甚だ多し。按ずるに、後漢書東夷傳に、倭在韓東南大海中云々。以露踞爲恭敬。人性嗜酒多壽考。至百餘歲者甚衆。といひ、また楊文公談苑にも、率長壽。多百餘歲。と見ゆ、晋書には、人多壽。百年或八・九十。とありて、吾が皇國の人は、上古より長壽なりしこと、はやく外國までも知られたり。五雜俎卷五人部に、人壽不過百歲。數之終也。故過百二十不死。謂之失歸之妖。ともありて、百歳以上の壽考を保つ人は、實に畸人にして國の祥瑞ともすべし。付喪神記に、無精の器物も百年を経れば精靈を得ともありて、器物以下諸品といへども、火災 風難等をまぬかれ、百年を経たるものは、世の古稀物として賞すれば、百餘年の壽考を保つ人はさら也。故に仁徳天皇も武内大臣をば、汝こそは世の遠人、なこそは國の長人、と大御歌に詠じ給ひ、大臣も、あれこそは世のなが人、と歌もて答へ奉れるよし、古事記 日本紀に見たりけり。

○千日町吹屋場跡

野町鑄物師村山四郎兵衛の傳説に云ふ。元祖四郎兵衛、正徳四年上京いたし、鑄物師の免許をうけ、千日町に鑄鑄場を開き、爰にて鑄器を出來せしかど、後此の地より泉村の地内なる今の地へ移轉せしめ、四郎兵衛は野町に居住せり。故に今に至り、野町吹屋と呼べりといひ傳へたり。按ずるに、咄隨筆に、享保九年に金澤城内の時鐘損じ、その鑄直を白髭前釜屋彦九郎に命ぜられ、向山御所村領の地内を借上げて、鑄鑄場をしつらへ、鑄形出來せしゆゑに、翌年古鐘をおろし、三月四日に大割をなしけるが、翌五日雷火の爲に、鑄形微塵に成り、四月十五日漸く鑄立て、廿六日に越後屋敷の鐘樓へ揚げり。然るにいか成る事にや頓て損じ、享保十二年の夏千日町平井但馬守と云ふ鑄物師の名人に命ぜられ、同年の冬鑄立て出來して、十月十八日に鐘樓へ揚げらる。とあり。右咄隨筆は則ち享保十二年の筆記なれば、此の頃千日町に吹屋場ありしこと知られけり。されば此の吹屋場をば、泉村の地内今の地へ移轉せしは、享保十二年の後なるべし。

東派眞宗也。明細帳に云ふ。敬榮寺文明二年創立、天文八年本山本願寺より淨勤と云者寺號を申請、石川郡御供田村に居住し、延寶四年新堅町へ移住、享保二十年千日町の末中村百姓地へ再轉。とあり。按ずるに、三箇屋版六用集に、敬榮寺新立町と載せたり。享保十八年四月廿八日の夜、千日町雨寶院より出火、石坂、野町邊焼失せしよし、變異記等に記載す。敬榮寺は、右火災後燒跡へ移轉せしなるべし。

○昌安町跡

今千日町の街尾の地邊なりと云ふ。文政年中厩川洪水の爲め、一時荒地と成る處、町醫師堀昌安中村の地内を乞ひ請け、自費を以て往來の左右に數十間の貸屋を建築し、小前の者共を爰に居住せしめ、産業に基かきしめ、圍内を昌安町と私稱し、夏季は夜店を開き、一時甚だ繁昌すといへども、大風の爲め家屋悉く破壊し、且昌安歿して遂に絶えたりけり。廢跡をば世人昌安たんぼと稱し、昌安町の遺名を殘し、童幼春季の遊觀所となしけり。

○昌安町傳話

綿津町政右衛門自記に云ふ。堀昌安と申す眼科の醫師是あ

○千日町敬榮寺